

10月30日

勞 動 問 題 演 説 會

期日 大正十年三月一日午後六時開會
會場 神田美土代町青年會館

労働者——無産者——何物もない、我等の意志表示としての凡ての機關は、ブルジョアの獨專するところである。筆も紙も奪はれた。そつして唯一最大の發表機關としての演説會すら尚ほ百金を投じなければならぬ。然し我等は正義の爲め、人類共存の爲め、飽くまでも連續的に絶叫しなければならない。そこで我等は我等同志に依つて一大演説會開催の計畫をした。

過去の形式は一切破り、少しでも新らしい形式所謂労働者の辯士を多く、然も入場料を徵收して決行するのである。

無産者の集會の一例として無産者同志の據出にて開催する事が出来るといふ事を知る。同時に一つの團體的行動の現はれとして入場料を據出してもらいたい。

辯士として労働者が多く出席するの理由は、労働運動は労働者の自主的運動でなければならぬと、強く主張するにあるからで將來必ず我々等労働者のみで出來得る時代が来る事を豫期し、切望して居るからである。

諸君に切望す、これ等の理由に依る、この集會を諸君に依つて意義あらしめられよ。

一般無産者諸君——來り聞け、我等の打ち振ふ腕の物凄まじき喰りを、——喉は破れ、血は流れ、遂に倒れ又起ちて、絶叫せんとする。我等の聲を、——

■ プログラム ■

司會者 高田和

日本機械技工組合

紡織學徒組合

正進會 信女會

稻葉松平三

坂本和五

高橋松平三

葉村好太郎

稻澤謙太郎

小岡好太郎

山野好太郎

稻暮好太郎

澤井好太郎

訪興好太郎

太田好太郎

吉郎好太郎

久郎好太郎

- 開會の辭
- 勞動運動の方向
- 自發的叫び
- 眞實
- 自主的労働運動
- 闘争より闘争へ
- 我等は生きんと欲す
- 連續的突擊
- 破壊か建設か
- 自由への道
- 労働運動の悪化
- 階級闘争の意義
- 夕張炭礦大罷業より歸りて全日本鐵夫總聯合會麻
- (外辯士數名)

入場料（金貳拾錢）